

The image features a background with a light beige and cream color palette, overlaid with a pattern of semi-transparent hexagons in various shades of grey and blue. A prominent horizontal band of solid orange color runs across the middle of the page. The Chinese characters '特集' are centered within this orange band.

特 集

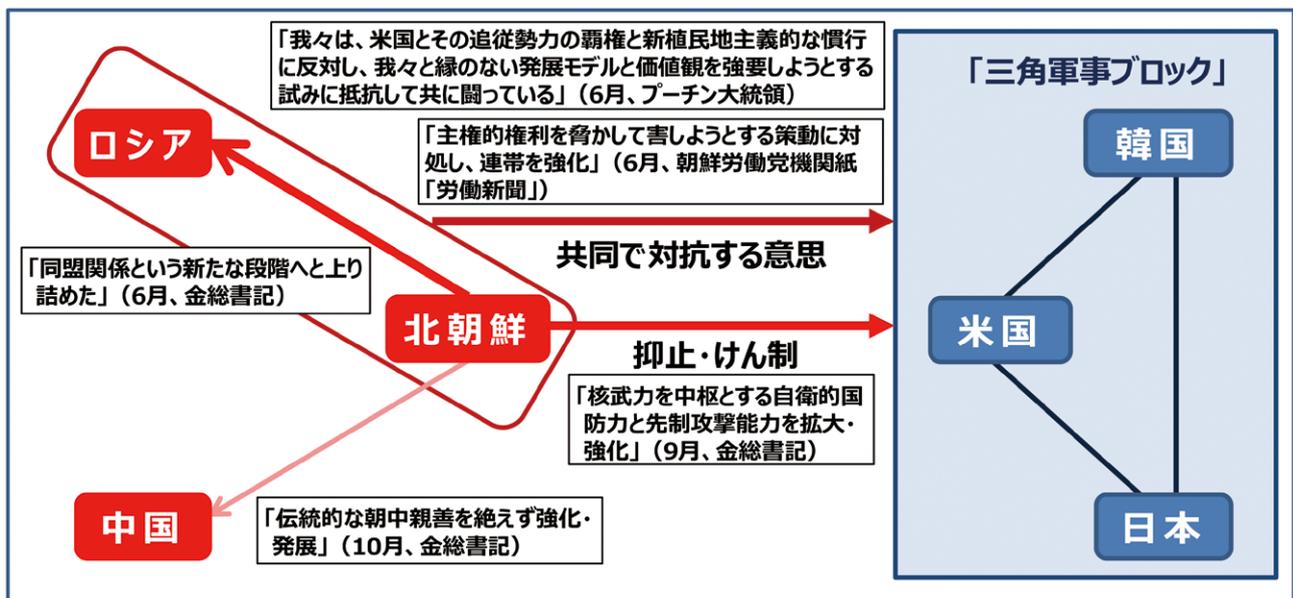
「新冷戦」を強調し、強硬路線を維持する北朝鮮

1 日米韓の「軍事ブロック」を強く警戒、軍備強化を推進

北朝鮮は、「米国が米日韓三角軍事ブロックを形成」、「米国により新冷戦構図が現実化」という認識を示し、日米韓をけん制すべくミサイル発射実験及び訓練を繰り返すとともに、「同盟関係」と位置付けるロシアと共にこれに

対抗する姿勢を鮮明にした。一方、北朝鮮は、中国との間では「親善関係の発展」を強調するにとどまり、中国にも対日米韓で北朝鮮と共闘する姿勢はうかがわれなかった。

朝鮮半島情勢をめぐる北朝鮮の認識（相関図）



（北朝鮮報道に基づき当庁作成）

具体的には、北朝鮮が「敵対国」と再定義した韓国に対しては、短距離弾道ミサイルの発射実験及び訓練など同国への攻撃を想定させる軍事的措置を繰り返し行い、同国との「戦争準備」に向けた取組を推進した。

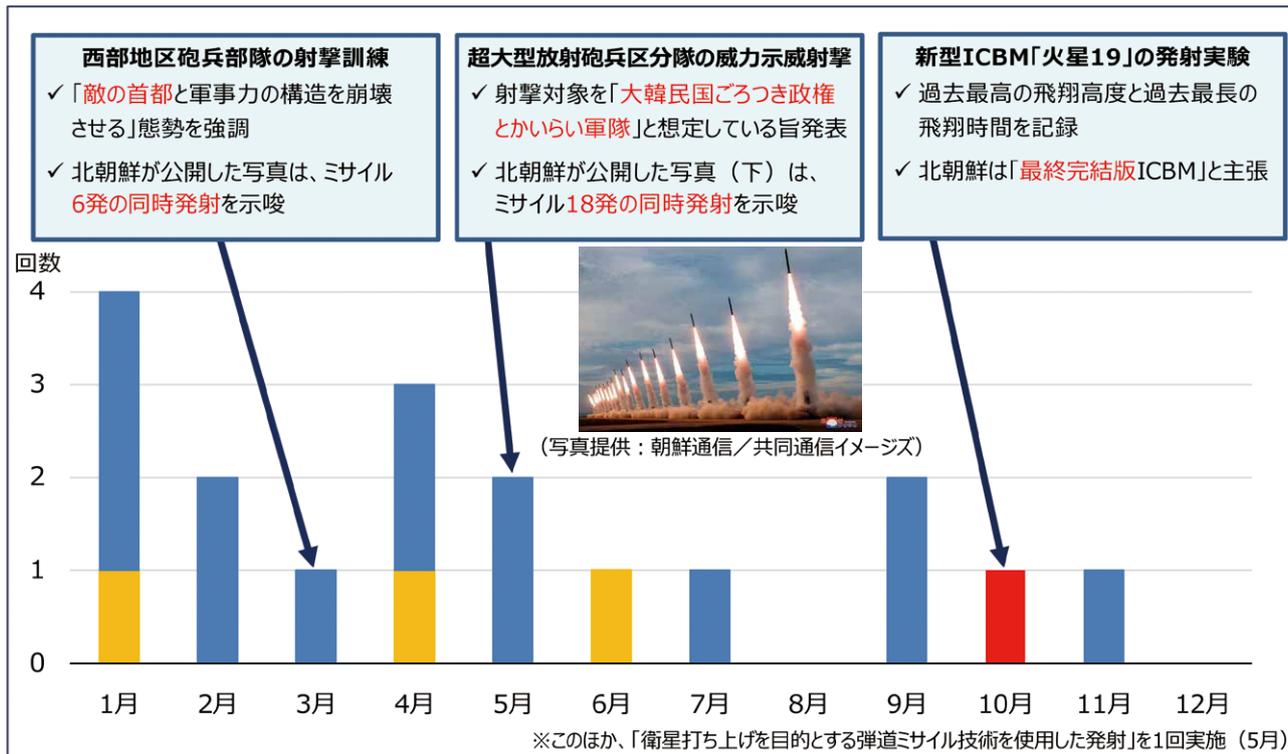
また、米国に対しては、^{キム・ジョンウン}金正恩総書記が、「恒久的に米国に対応・けん制」すべく「核武力の拡大・強化」を訴え（9月）、「敵に我が方の

対応意志を知らせる」として「最終完結版」とする大陸間弾道ミサイル「火星19」の発射実験を実施した（10月）。

北朝鮮は、「核保有国」として、より有利な立場で次期米政権との交渉を模索し、米国の対北朝鮮姿勢を見極めつつ、今後も核・ミサイル開発を推進していくものとみられる。

2024年のミサイル発射回数

北朝鮮は、2024年中、韓国との対決姿勢を背景に、対韓攻撃を想定したとみられる短距離弾道・巡航ミサイル（■）を多く発射。我が国やグアムなどを射程に収め得る中距離弾道ミサイル（■）の発射については3回。米国本土を射程に収め得る大陸間弾道ミサイル（ICBM、■）については、新型を1回発射



(各種報道に基づき当庁作成)

2 ロシア大統領の訪朝を契機に蜜月ぶりが加速する露朝関係

露朝関係は、ロシアによるウクライナ侵略を契機に強化されてきたところ、プーチン大統領の訪朝及び「包括的戦略的パートナーシップ条約」への調印（6月）により、更なる蜜月ぶりを印象付けた。その際、金総書記は、露朝関係が「同盟関係に上り詰めた」と評価した。プーチン大統領は、「同盟関係」に言及していないが、これまでの北朝鮮による武器・砲弾支援に加え、1万人以上ともされる兵士派遣により、事実上、露朝関係は軍事同盟を想起させる新たな段階に入った。



プーチン大統領から贈呈された乗用車を運転する金総書記 (写真提供：朝鮮通信=時事)

北朝鮮は、見返りとしてロシアから最新軍事技術の獲得を期待しているとみられ、露朝の軍事的関係の強化は、今後の東アジア地域の安全保障にも大きな影響を及ぼすと考えられる。

露朝首脳会談（6月）のポイント

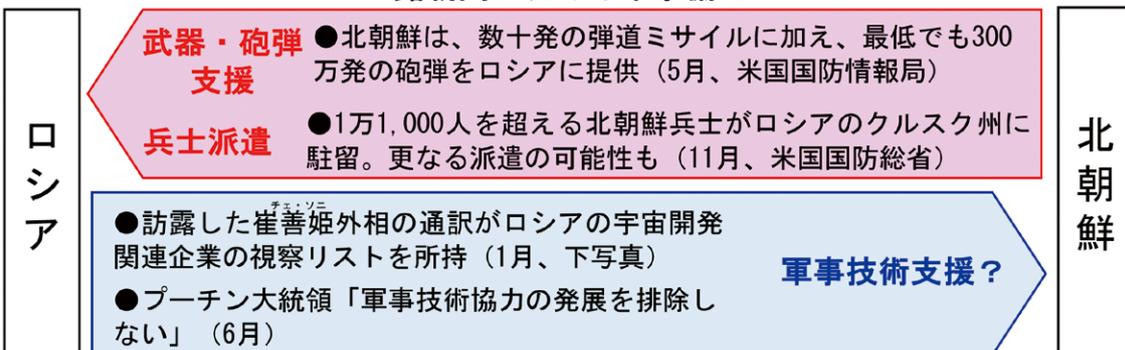
「軍事介入条項」の復活
「包括的戦略的パートナーシップ条約」第4条で有事の際の「軍事介入」を規定。露朝間の軍事的な結び付きを誇示

国際的な孤立イメージの払拭
ウクライナ侵略及び核・ミサイル開発で国際社会からそれぞれ非難を受ける露朝が相互の立場を支持・擁護

「制裁」への対抗意思を表明
「一方的な強制措置」への反対を「条約」に明記。プーチン大統領が国連安保理決議による北朝鮮派遣労働者の規制を疑問視

軍事技術協力の可能性
原子力等での技術協力を「条約」に明記。プーチン大統領は露朝間の軍事技術協力の可能性に言及

露朝間における軍事協力



露朝間における軍関係者の往来

- 趙春竜書記（軍需担当）、崔外相と共に訪露（1月）
- 金日成軍事総合大学総長、訪露（7月）
- 露国防次官（軍需担当）、訪朝（7月）
※金正恩総書記と会談。次官級高官との会談は異例
- 金正植党第1副部長（軍需担当）、訪露（8月）
※軍事技術展示会に参加
- ペロウソフ国防相、訪朝（11月）



（写真提供：SPUTNIK/時事通信フォト）

＜上写真の右人物が持つ書類の記載内容＞
宇宙技術分野参観対象目録
1. 宇宙ロケット研究所「プログレス」
…（後略）

北朝鮮によるロシアへの兵士派遣をめぐる動向

北朝鮮兵士の派遣規模等（韓国国家情報院発表）

- ・北朝鮮は、特殊部隊等4個旅団合計1万2,000人規模の兵士派遣を決定
- ・10月中旬までに約1,500人がロシアに到着
- ・北朝鮮兵士にはロシア軍の装備が与えられ、サハ共和国（ヤクーチヤ）やブリヤート共和国等の住民を装う偽装身分証を発行
- ・朝鮮人民軍総参謀部副総参謀長等が戦線に移動中
- ・北朝鮮軍の一部が12月から戦闘に投入。少なくとも約100人が死亡し、約1,000人が負傷

北朝鮮兵がロシア軍から装備を受け取っているとされる映像（ウクライナ戦略コミュニケーション・情報安全保障センターウェブサイト〈<https://spravdi.gov.ua/en/north-korean-troops-being-outfitted-in-russian-gear/>〉）

移動

クルスク州 ● 戦闘に参加

ロシア東部で訓練

ロシア海軍輸送艦でロシア極東に輸送

（各種公開情報を基に当庁作成）

過去に北朝鮮が海外派兵した主な事例

- ・ベトナム戦争
- ・第4次中東戦争（エジプトに派兵）
- ・アンゴラ内戦

北朝鮮及びロシアの反応

- ・「私は、国際報道界が最近広めている我が軍隊の対ロシア派兵説に留意した。もし、そのようなことがあるなら、それは国際法的規範に合致した行動であろう」（10月、北朝鮮外務省ロシア担当次官）
- ・「この条項（「包括的戦略的パートナーシップ条約」第4条）の枠組みで何をどのように実行すべきかは、正に我々の問題である」（10月、プーチン大統領）

3 外交関係樹立75周年を迎えるも距離感が垣間見える中朝関係

北朝鮮は、中国との外交関係樹立75周年を迎え、年初に「朝中親善の年」として交流強化を図る方針を掲げた。しかし、「朝中親善の年」開幕式（4月）に中国の要人が訪朝したり、中国の建国記念日（10月）に際して金総書記が友好関係を強化する旨の祝電を送ったりしたほかは、関係強化をうかがわせる動きはほとんど見られず、名指しではないものの、時には北朝鮮による中国批判とも受け止められ

る論評（下表参照）も見られた。

こうした背景には、対米関係で「新冷戦」構造を強調する北朝鮮とこれに否定的な中国との立場の違いに加え、ロシアという後ろ盾を得たことがあるとみられる。

今後も中国とは一定の友好関係を維持しつつ、更なる関係強化については、米朝及び米中関係、露朝及び米露関係を見据えながら調整していくものとみられる。

2024年の主な中朝関連動向

1/1	金総書記、習近平国家主席への祝電で本年を「朝中親善の年」として交流強化の意向を表明
4/11	中国の趙楽際全国人民代表大会常務委委員長、訪朝。「朝中親善の年」開幕式（4/12） ▶ 5月以降、北朝鮮は言及せず
5/27	北朝鮮、日中韓サミットの共同宣言に反発 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「誰であれ我が方に非核化を説教しつつ、核保有国としての我が国の憲法的地位を否定したり、侵害しようとするならば、最も重大な主権侵害行為と見なされる」 ※ 北朝鮮は、2017年に対北朝鮮制裁を強化する国連安保理決議が採択された際、「米国と中国が『協議』して仕立て上げた」と名指しで批判。今次反発では、名指し批判せず</p> </div>
7/11	中朝友好協力相互援助条約締結63周年 北朝鮮、記念行事出席者を例年より格下げ。例年、機関紙に掲載の関連社説もなし
9/15	金総書記、北朝鮮の政権樹立76周年（9/9）に際しての習主席からの祝電に対し、友好関係強化の意向を表明
10/1	金総書記、中国建国75周年（10/1）に際しての習主席への祝電で、友好関係強化の意向を表明
10/6	外交関係樹立75周年を迎えるも、関連行事は確認されず

（北朝鮮報道等に基づき当庁作成）

金正恩体制以降の中朝・露朝間における代表团往来状況

